



# 五十年後新風景

范 雪 奇 (ハン セツキ)  
東京理科大学 理工学部 建築学科

特別審査員賞



The presentation board is divided into several sections:

- 五十一年後の新風景**: A large illustration showing a dense residential area with green spaces and modern buildings.
- 2060**: A bar chart showing population trends from 2000 to 2060, with a 73% increase in the elderly population.
- 設計アプローチ**: A diagram showing the integration of traditional courtyard houses (四合院) and modern units.
- 設計方法**: A diagram showing the combination of different types of housing units to create an open space.

現代中国の集合住宅地域は統一的な住戸プランで、タワーマンション型で作られています。それに対して私が考えたのは将来50年後に多様な住戸プランを持ちながら様々なオープンスペースを持つ集合住宅地域です。

提案は現代中国の集合住宅が伝統園林建設の思想で作られた公園に行くコミュニティと昔ながらある四合院、フートンの中で小さいな単位で囲まれた中庭、住宅外壁の間で人々が集まる場所に行った近隣同士にある親密な関係を融合する。このような様々な大きさのCOMMONスペースやアクティビティが生み出す新たな風景です。

### 講評

隣国中国では経済発展のため1980年より一人っ子政策を導入し、1982年憲法では国策としています。当時は生産年齢人口が高く扶養年齢人口を低く抑えることで経済成長を有利に進めてきました。それから30年、隣国に於いても経済成長は核家族化を進め地域コミュニティを希薄にし、生産年齢人口の割合がピークを迎え2015年には減少に転じ高齢化社会に入ると言われています。作者は母国が今後抱える住環境問題に取り組み、母国に新たな住環境のあり方を提起する作品です。世代に合わせた住戸の組み合わせの中で生まれる狭間のような空間、住棟の配置から生まれる大小のオープンスペースから豊かな地域コミュニティが形成されていくだろうと想像させられます。

「未富先老」な時代を迎えると懸念されている中国に於いて心豊かに温もりある建築を楽しく創造して行かれることを希望します。

(審査委員：海老原 智子)

